

抗インフル薬の候補化合物

キノコ「霊芝」から発見

九大など

九州大学大学院農学
 研究院の清水邦義准教授や朱欽昌特任助教らは、多くの薬効が知られるキノコの一つ「霊芝」から抗インフルエ
 ンザ薬の候補化合物を発見した。脂質性の化
 合物である「ガノデリ
 ン酸」がインフルエン
 ザウイルスの増殖に関
 わる酵素の働きを妨げ
 ることが分かった。新
 しい抗インフルエンザ
 薬の開発につながる可
 能性がある。

近畿大学の太賀宏一
 郎准教授らとの共同研
 究。成果は26日、英電
 子版科学誌サイエンテ
 イフィック・リポーツ
 に掲載された。
 同ウイルスはノイラ
 ミニターゼ(NA)と



いう酵素を利用し、子
 孫となるウイルスを放
 出する。NAの阻害剤
 研究チームは、抗イ

霊芝(九大
 提供)
 がインフル
 エンザ治療
 に有効だが、ウイル
 スが薬剤耐
 性を持った
 め新しい阻
 害剤の探索が必要とな
 る。

「H5N1」型ウイル
 スのNAに対し、発見
 した「ガノデリン酸T
 1-Q」はタミフルに比
 べ1.5倍の阻害活性
 を示した。ガノデリン
 酸を含む霊芝エキスを
 マウスに投与すると、
 ウイルス感染による体
 重減少が抑えられるこ
 とを明らかにした。

霊芝は米国食品医薬
 品局(FDA)で健康
 食品として認可されて
 おり、安全性が高いと
 みられる。